

研究報告

学部生からみた教員に必要な資質能力に関する一考察

二宮 孝行 杉浦 勉 西出 勉

北翔大学教育文化学部教育学科

抄 録

本研究は、養成段階における学部生が教員としての資質能力を講義や学生生活の中で、どの程度身に付ける必要があるのか、また、卒業時にどの程度資質・能力を身に付けていると認識しているのかについてアンケート調査を行い考察したものである。

別惣(2013)は、「小学校教員養成スタンダード」を策定し、調査から上位3項目を質問事項とした34項目を「小学校教員の資質・能力形成に関する調査」とし、学部生らの意識について調査・分析を行っている。

本研究では別惣の34項目と同様の質問項目によるアンケート調査を行った。別惣との集計方法、サンプル数に違いはあるが、必要度として最も割合が多かった項目は、「教職意識」、到達度として最も割合が多かった項目が「子どもに対するコミュニケーション力」であり、別惣の調査結果と一致している。

また、北海道教育委員会の示している「北海道における教員育成指標」に照らすと、「実践的指導力」に関する項目について学部生自身があまり到達していないと認識していることが明らかとなった。

キーワード：学ぶ側の視点、小学校教員養成スタンダード、教職課程履修カルテ、北海道における教員育成指標

I. はじめに

本学は2014年度より教育文化学部教育学科がスタートし、特に初等教育コースの学部生は、小学校教員を志望し入学している。課程認定を受けた大学として、「養成段階において小学校教師としてどのような資質能力を身に付けておく必要があるのか」という視点は、本学における重要な課題でもある。北海道教育委員会（以下道教委）では、「北海道における教員育成指標」（平成29年12月以下指標）において【資料2】のように学校種別に指標を提示している。教員のキャリアステージを踏まえ、養成段階を含めキーとなる資質能力が示されているところに特色がある。また、本学においても平成22年度入学生から教職課程の「教職に関する科目」として「教職実践演習」が新設されたことを契機に、【資料3】のように「北翔大学教職課程履修カルテ」を作成し、必要な資質能力を示しながら、学部生による自己評価を実施してきた。

本稿では昨今の情勢に鑑み、教員に求められる資質能力に着目するとともに、特に本学学部生が資質能力について学ぶ側としてどのような意識を持っているのかについて調査研究を行ったものである。

II. 研究の目的

教育学科初等教育コース4年次（2019年3月卒業）の学部生を対象に小学校教員の資質・能力形成に関する調査を通して、小学校教員に求められる資質能力に関する学部生の認識（小学校教員に求められる資質能力が大学卒業時までどの程度身に付けておく必要があるのか）について明らかにする。

III. 研究の方法

本調査研究では、小学校教師に必要な資質能力の項目設定及び質問紙調査の実施方法について、別惣¹⁾(2013)の先行研究を活用し行った。別惣は養成段階に

おける小学校教員として必要な資質能力について「小学校教員養成スタンダード」を開発し、最終的により吟味された34項目【資料1】の資質能力を調査研究で用いる質問項目として設定している。

本稿でも同様に、これら34項目を小学校教師に必要な資質能力としてアンケート調査を行った。調査対象は2019年3月卒業の教育学科初等教育コース4年次58名の学部生である。資料1に基づきアンケート調査：「小学校教員の資質・能力形成に関する調査」（2019年3月17日実施）を行い、その結果について分析した。

【資料1】のように小学校教員養成スタンダード34項目をもとに、学び手である学部生に対して（1）必要度、（2）到達度の2つの認識について、5件選択方式で回答を求め調査を実施した。学び手側の視点からの調査については、養成段階における小学校教員としての資質能力に対する当事者意識を把握するとともに、今後、教職センター等において教職課程履修カルテの見直しや教員養成カリキュラムの改善・充実に資する資料となりえるものと考えられる。

【資料1】 アンケート項目

《小学校教師に必要な資質・能力》

（小学校教員養成スタンダード：34項目）

<子ども理解力>

- （1）子どもと接する機会を多く設け、子どもをありのまま理解しようとする事。
- （2）子どもの年齢や学年毎の発達段階や特徴を理解している事。
- （3）子どもと接する中で、個々の子どもの特性や違いを理解できる事。

<子どもに対するコミュニケーション力>

- （4）すべての子どもに平等・公平に接することができる事。
- （5）子どもの話を最後まで聞いて、子どもの気持ちを受け止めることができる事。
- （6）子どもと対話的コミュニケーションができる事。

<企画・計画力>

- （7）子どもの実態を踏まえた指導案（板書や発問の計画を含む）を立案できる事。
- （8）教具やワークシートの準備ができる事。
- （9）教材研究ができる事。

<学習指導力>

- （10）1時間の授業のねらいを明確にして学習指導ができる事。
- （11）各教科内容の知識を持っている事。
- （12）学習指導要領の内容を理解している事。

- （13）子どもに学習課題を持たせる指導ができる事。
- （14）授業の中に子どもの活動時間を十分に確保できる事。

<評価力>

- （15）授業のねらいに沿って子どもの学習成果を評価できる事。
- （16）授業評価の目的を理解している事。
- （17）評価の観点をもって客観的に授業評価ができる事。

<学級経営力>

- （18）学級内での生活や学習のルール設定ができる事。
- （19）学級内において民主的な機能的集団づくりができる事。
- （20）学級内の友だち関係とその性質が把握できる事。
- （21）子どもの相互理解を通して、信頼関係を築くことができる事。

<生徒指導力>

- （22）子どもの話をよく聞き、子どもの発するサインを読み取れる事。

- （23）子どもが自主的・主体的に活動するように粘り強く指導ができる事。

- （24）生徒指導の目的や方法を理解している事。

<教職意識>

- （25）教員としての使命感、責任感、教育に対する情熱を持っている事。
- （26）教育者としての素直さ、謙虚さ、協調性を持っている事。
- （27）社会人として常識、ルールを遵守し、適切な言葉遣いができる事。
- （28）人間的な温かさ、親しみやすさ、ユーモアを持っている事。

<自己改善力>

- （29）授業の反省・分析から次の改善策や課題を提示できる事。
- （30）専門的な知識を実践に応用し、そこから学ぶことができる事。
- （31）自己研鑽への意欲や向上心を持っている事。

<連携・協働>

- （32）保護者や同僚教師と連携をとり、子どもに冷静な対応ができる事。
- （33）家庭との連携を図り、保護者との信頼関係を持つように心がける事。
- （34）保護者に学校のことを知らせ、理解を求める姿勢がある事。

Ⅳ. 調査結果の分析

1. 資質能力の必要度に関する学部生の認識

集計結果は【表1】の通りである。5 必要である（以下5） 4 少し必要である（以下4） 3 どちらとも言えない（以下3） 2 あまり必要でない（以下2） 1 必要でない（以下1）と表記する。また、グラフは左が必要度、右が到達度である。

必要度では、すべての設問に対して、5、4との回答を合わせると8割を超えている。これは、学部生が学校現場に対してどの内容もすべて大切であるという考えの表れであろう。

5 のみの回答で割合が高かったのは、「自己改善力」設問（31）自己研鑽への意欲や関心【図1】である。

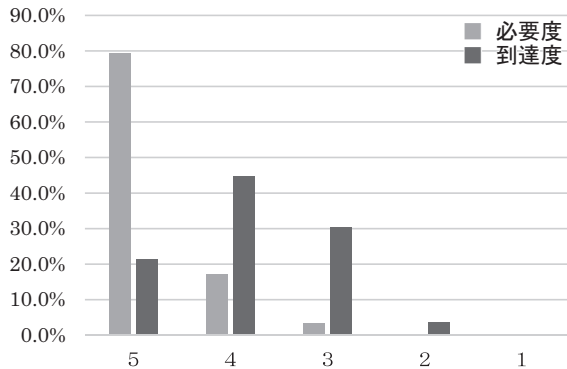


図1 自己改善力 設問32

当然ではあるが、本学初等教育コースの学部生は、小学校教員を目指して入学してくるものが多い。学部生自身が意欲的に研究していくことが大切であるという意識の表れと考えられる。

5、4を合わせて割合が高かったのは、「教職意識」設問（28）人間的な温かさ、親しみやすさ、ユーモアを持っている【図2】である。

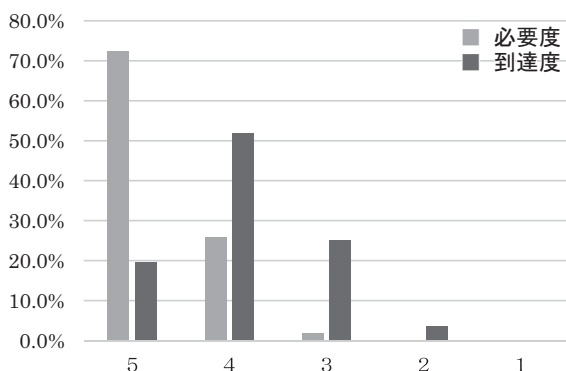


図2 教職意識 設問28

教員として子どもや他の教職員とも接する上で、大切な資質・能力である。卒業時まで身に付ける必要性を特に感じていると思われる。

5、4を合わせて次に割合が高かったのは、「教職意識」設問（25）教員としての使命感、責任感、情熱【図3】

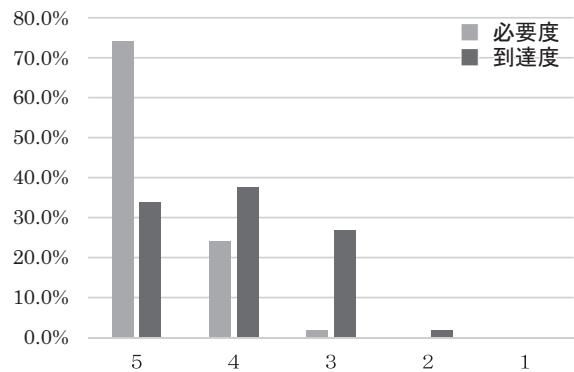


図3 教職意識 設問25

本学では、キャリア教育に力を入れている。教育学科の多くの学部生は礼儀正しく、きちんと挨拶もできる。当然教員を目指しているからには、社会規範をはじめ日頃から手本となる行動を取る必要がある。まして、この調査は、卒業直前のものであるため、このような結果には頷ける。

以下高かったのは、「教育意識」設問（26）、設問（27）

「自己改善力」設問（29）、設問（31）の順である。

上位はすべて「教職意識」であった。

また、この結果は、集計方法に違いはあるが、米沢²⁾の結果と類似している。

一方、5、4合わせての割合が1番低かったのは、「学級経営力」設問（19）学級内において民主的な機能的集団作りができる【図4】である。

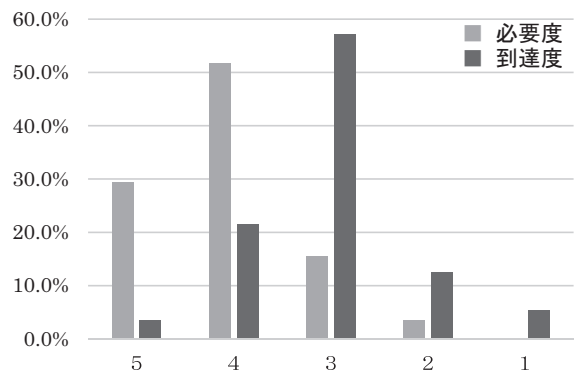


図4 学級経営力 設問19

表1 調査結果

		5	4	3	2	1%
1	必	68.4	24.6	7.0	0.0	0.0
	到	16.4	47.3	32.7	3.6	0.0
2	必	58.6	31.0	10.3	0.0	0.0
	到	5.4	44.6	44.6	5.4	0.0
3	必	56.9	31.0	12.1	0.0	0.0
	到	16.1	44.6	35.7	3.6	0.0
4	必	75.9	19.0	5.2	0.0	0.0
	到	44.6	35.7	19.6	0.0	0.0
5	必	70.7	24.1	5.2	0.0	0.0
	到	37.5	44.6	17.9	0.0	0.0
6	必	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0
	到	32.1	44.6	19.6	3.6	0.0
7	必	44.8	43.1	8.6	3.4	0.0
	到	0.0	17.9	67.9	10.7	3.6
8	必	37.9	51.7	6.9	0.0	3.4
	到	1.8	26.8	64.3	7.1	0.0
9	必	53.4	34.5	8.6	0.0	3.4
	到	3.6	35.7	48.2	12.5	0.0
10	必	60.3	31.0	5.2	3.4	0.0
	到	3.6	30.4	57.1	8.9	0.0
11	必	51.7	41.4	3.4	1.7	1.7
	到	3.6	23.2	57.1	16.1	0.0
12	必	50.0	37.9	12.1	0.0	0.0
	到	5.4	26.8	46.4	21.4	0.0
13	必	53.4	39.7	5.2	1.7	0.0
	到	0.0	26.8	60.7	12.5	0.0
14	必	56.9	29.3	10.3	3.4	0.0
	到	7.1	25.0	58.9	8.9	0.0
15	必	43.1	39.7	15.5	0.0	1.7
	到	1.8	23.2	53.6	19.6	1.8
16	必	44.8	41.4	12.1	0.0	1.7
	到	5.4	28.6	51.8	14.3	0.0
17	必	37.9	46.6	12.1	1.7	1.7
	到	5.4	28.6	50.0	16.1	0.0

		5	4	3	2	1%
18	必	44.8	44.8	6.9	3.4	0.0
	到	7.1	19.6	55.4	14.3	3.6
19	必	29.3	51.7	15.5	3.4	0.0
	到	3.6	21.4	57.1	12.5	5.4
20	必	50.0	36.2	13.8	0.0	0.0
	到	7.1	25.0	53.6	10.7	3.6
21	必	62.1	32.8	5.2	0.0	0.0
	到	16.1	30.4	46.4	7.1	0.0
22	必	62.1	32.8	5.2	0.0	0.0
	到	14.3	41.1	37.5	7.1	0.0
23	必	56.9	37.9	5.2	0.0	0.0
	到	7.1	39.3	44.6	7.1	1.8
24	必	44.8	44.8	10.3	0.0	0.0
	到	3.6	32.1	51.8	10.7	1.8
25	必	74.1	24.1	1.7	0.0	0.0
	到	33.9	37.5	26.8	1.8	0.0
26	必	75.9	20.7	3.4	0.0	0.0
	到	32.1	37.5	28.6	1.8	0.0
27	必	77.6	19.0	3.4	0.0	0.0
	到	17.9	50.0	28.6	3.6	0.0
28	必	72.4	25.9	1.7	0.0	0.0
	到	19.6	51.8	25.0	3.6	0.0
29	必	60.3	36.2	1.7	1.7	0.0
	到	14.3	37.5	37.5	10.7	0.0
30	必	48.3	37.9	13.8	0.0	0.0
	到	10.7	30.4	50.0	7.1	1.8
31	必	79.3	17.2	3.4	0.0	0.0
	到	21.4	44.6	30.4	3.6	0.0
32	必	48.3	41.4	10.3	0.0	0.0
	到	7.1	33.9	39.3	17.9	1.8
33	必	67.2	24.1	6.9	1.7	0.0
	到	12.5	30.4	41.1	16.1	0.0
34	必	69.0	20.7	8.6	1.7	0.0
	到	12.5	28.6	41.1	17.9	0.0

《質問内容等》

(1) 小学校教員になるためには、以下の34項目を大学卒業時までどの程度身に付けておく必要があると思いますか。【必要度】

- 〈回答：卒業時での必要度〉 ～ 5件選択
- 5. 必要である
 - 4. 少し必要である
 - 3. どちらともいえない
 - 2. あまり必要ない
 - 1. 必要ない

(2) あなたが小学校教員になると仮定した場合、現時点で、これらの項目内容がどの程度身に付いていると思いますか。【到達度】

- 〈回答：自己の到達度〉 ～ 5件選択
- 5. 身に付いている
 - 4. 少し身に付いている
 - 3. どちらともいえない
 - 2. あまり身に付いていない
 - 1. 身に付いていない

学級経営は、理論もある程度必要ではあるが、現場実践で身に付けていくことが多い。ましてやその年度によって学級集団の違いも見られる。実際の現場で学んでいながら学級経営力を身に付けていくことが必要である。

次に低かったのは、「評価力」設問（15）、設問（17）である。評価に関しても同じく、児童を目の当たりにしながら現場実践で身に付けていくものであるから、卒業時まである程度必要という結果になったと思われる。

2. 資質能力の到達度に関する学部生の認識

到達度でも同様に比較してみる。5身についている（以下5）4少し身についている（以下4）3どちらとも言えない（以下3）2あまり身についていない（以下2）1身についていない（以下1）と表記する。5の回答が1番多かったのは、「子どもに対するコミュニケーション力」設問（4）すべての子どもに平等・公平に接する【図5】である。なお、これは後述する5と4を合わせた結果での2番目に高い割合でもある。

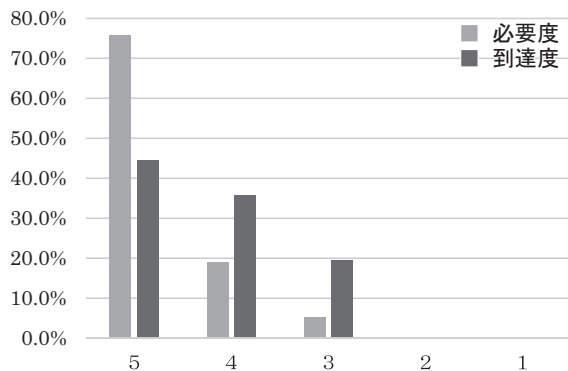


図5 子どもに対するコミュニケーション力 設問4

5と4を合わせて最も割合が高かったのは「子どもに対するコミュニケーション力」設問（5）子どもの話を最後まで聞いて子どもの気持ちを受け止めることができる【図6】である。

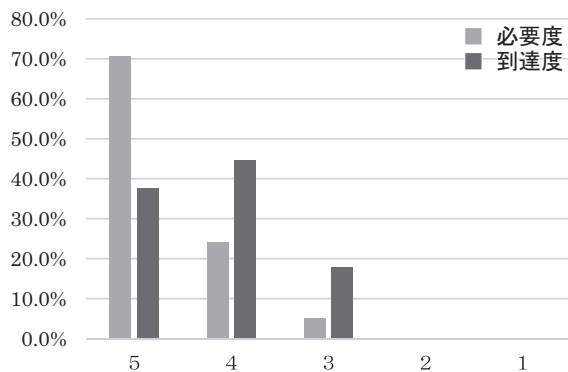


図6 子どもに対するコミュニケーション力 設問5

3番目に高かったのは、「子どもに対するコミュニケーション力」設問（6）子どもと対話的なコミュニケーションができる【図7】である。

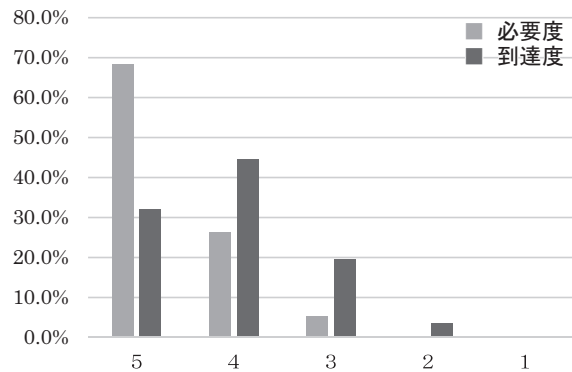


図7 子どもに対するコミュニケーション力 設問6

上位はすべて「子どもに対するコミュニケーション力」という結果になった。

この結果は、米沢の調査結果の上位と同じである。

米沢³⁾が述べている「(前略) 加えて彼らが養成段階で子どもと平等・公平に接し、子どもの気持ちを受け止め、対話的にコミュニケーションできる力が身に付けていると認識していることも指摘できる。」と言える。

5, 4の割合が最も少なかったのは、「学習指導力」設問（7）指導案の立案【図8】である。

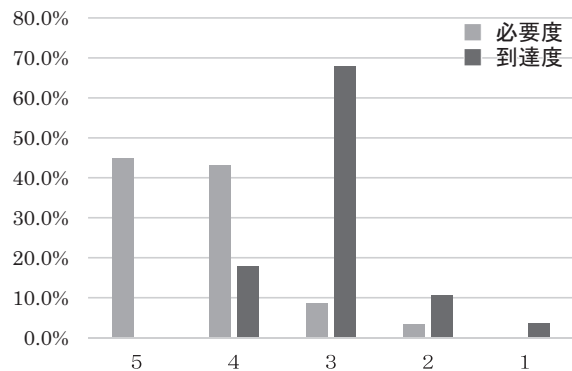


図8 学習指導力 設問7

講義等で模擬授業を行う際に指導案作成を行ってはいませんが、子どもの実態を踏まえたという設問なので、このような割合になったと思われる。

次いで割合が少なかったのは、「評価力」設問（15）授業のねらいに沿った学習評価【図9】と設問（19）「学級経営力」【図10】である。

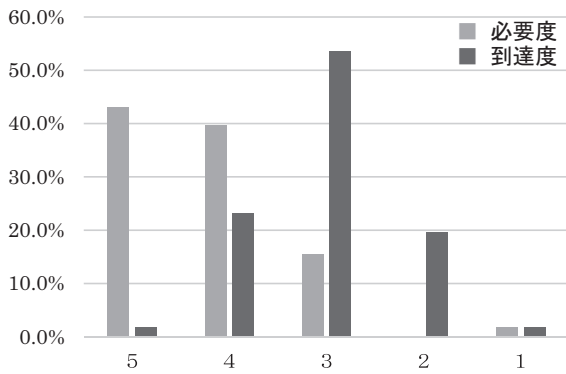


図9 評価力 設問15

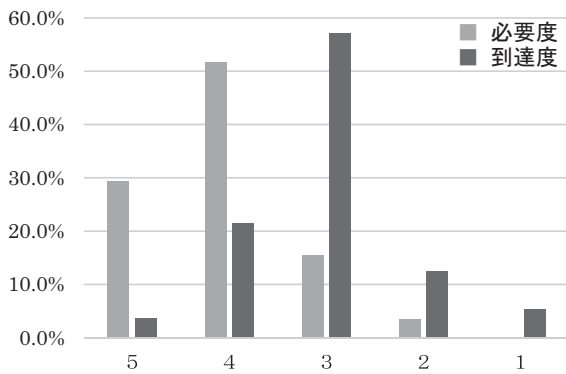


図10 学級経営力 設問19

評価方法や評価規準は、理論的に学んではいる。しかし、現場経験がない。教育実習では授業を行う中で1時間ごとの評価を行っているかもしれないが、単元全体や学期末などの最終的な評価を経験していないことの結果と考えられる。

同様に学級経営についても理論等は学修できるが、実践経験がない。そのため、講義等では、児童の実態がわからないまま、あるいは、架空の児童を想定することとなる。

3. 道教委の指標との比較

では、道教委で示されている指標と学部生の認識との関係はどうであろうか。到達度で比較してみる。

まず、到達度の高かった上位三問、「子どもに対するコミュニケーション力」設問(4),(5),(6)は、道

教委の指標の、教育の専門家として、実践的……子ども理解力に当たる。

しかし、同じ求める教員像での実践的指導力に当てはめると、到達度に関する認識が低い。

「企画・計画力」「学習指導力」「評価力」「学級経営力」「生徒指導力」設問(7)から(24)は、道教委指標での実践的指導力の授業力にあたる。特に、これらの到達度は、5, 4の回答が少なく「学級経営力」「生徒指導力」の一部を除くと中位から下位にある。

V. ま と め

サンプル数は少なかったが、教職を目指す学部生の意識が米沢の結果とほぼ一致していた。

必要度に関する認識の結果からは、どの項目も必要であると考えている。

しかし、現場に行かなければ必要性を感じにくい項目「評価」や「集団作り」については、現場での児童の様子をもとにした講義を構想するなどの工夫が必要であろう。

到達度に関する認識については、「子ども理解力」が高かった。これらの要因は教育実習や小学校へのボランティア活動、公開研究会の参加を通じて、子どもとの関わり方について学ぶ機会が多いからだろう。

到達度の低かった「学習指導力」については、模擬授業のみならず、より実践的な即戦力となるような講義内容の工夫も必要だろう。

今回は別働の先行研究による質問項目と同様のアンケート調査を行い、学部生の認識について調査した。今後は、調査研究を継続しながら道教委の指標に基づいた本学科の教職課程履修カルテの見直しも行いたい。

VI. 引 用

- 1) 岩田康之他：小学校教師に何が必要か，第1版，PP.51-52, PP.149-150東京学芸大学出版会，東京(2013)
- 2) 前掲書P.61
- 3) 前掲書PP.64-65

【資料2】 北海道における教員育成指標（北海道教育委員会：平成29年12月）

3 教員育成指標（スタンダード）

※「養成段階」…「養成段階」には、新規に採用する教員に対して任命権者が求める資質能力を掲載

求める教員像	教員育成指標（スタンダード）					
	キャリアステージ キーとなる資質能力	養成段階※	初任段階	中堅段階	ベテラン段階	
教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員	使命感や責任感・倫理観	・教育公務員として遵守すべき法令や職務等を理解している。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たしている。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たし、子どもや保護者等の期待に応える教育活動を行っている。	・教育公務員に係る法令等を遵守するとともに、法令等で定められた職務上の義務を果たすことはもとより、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。	
	教育的愛情	・子ども一人一人のよさや可能性に目を向けようとしている。	・子どもへの愛情に基づき、子ども一人一人のよさや可能性を伸ばしている。	・子どもへの愛情に基づき、学校（園）の教育活動を推進している。	・子どもへの愛情に基づき、学校（園）の教育活動を推進するため、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。	
	総合的人間力	・社会体験等を通して、人間性、社会性、協調性を身に付けている。	・上司や同僚、保護者との関わりの中で、人間性、社会性、協調性を高めている。	・上司や同僚、保護者、地域との関わりの中で、人間性、社会性、協調性をバランスよく高めている。	・教職員相互に、人間性、社会性、協調性をバランスよく高める校（園）内体制を整えている。	
	教職に対する強い情熱・人権意識	・人権意識に基づき、地域のボランティア活動や実習先の学校（園）の教育活動において、すべての子どもを尊重しようとしている。	・人権意識に基づき、地域の行事や社会教育活動、学校（園）の教育活動において、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有している。	・人権意識に基づき、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有している。	・人権意識に基づき、すべての子どもを尊重するとともに、教職への誇りを有し、職場全体の意識が高まるような働きかけを行っている。	
	主体的に学び続ける姿勢	・研修の法的な位置付けや、情報の収集・選択・活用的重要性を理解している。	・初任段階教員研修等や情報の収集・選択・活用を通して、実践的指導力など、初任段階に求められる資質能力を身に付けようとしている。	・学校（園）の課題を理解し、解決するための校（園）内外の研修に積極的に参加するとともに、適切な情報の活用・再構成などを通して、高度な指導力など、中堅段階に求められる資質能力を高めようとしている。	・組織的・協働的な体制づくりの重要性を理解し、組織マネジメント等の研修に積極的に参加するとともに、適切な情報の活用・再構成などを通して、人材育成や地域との連携・協働など、ベテラン段階に求められる資質能力を高めようとしている。	
教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員	子ども理解力	・子ども理解の意義や重要性を理解し、子ども一人一人に積極的に関わろうとしている。	・子ども一人一人のよさや可能性をはじめ、家庭環境などを理解して子どもと向き合っている。	・子どもを取り巻く様々な環境や背景を含め、子ども一人一人を的確に理解している。	・子ども一人一人を的確に理解するとともに、教職員相互に情報を共有できるよう校（園）内体制を整えている。	
	教科等（保育）や教職に関する専門的な知識・技能	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 ・教科等（保育）の内容に関する専門的な知識・技能を身に付けている。 ・自律的に研修を進めるための基礎的な知識・技能を身に付けている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識・技能を身に付け、職務に生かしている。 ・教科等（保育）の内容に関する専門的な知識・技能を身に付け、授業（保育）に生かしている。 ・自らの課題解決に向け、自律的に研修を進めている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する深い知識・技能を身に付け、職務に生かしている。 ・教科等（保育）の内容に関する専門的な知識・技能を身に付け、授業（保育）に生かすとともに、初任段階の教員に指導助言している。 ・学校（園）の課題の解決に向け、自律的に研修を進めている。	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する深い知識・技能を身に付け、職務や職場の意識向上に生かしている。 ・教科等（保育）の内容に関する専門的な知識・技能を校（園）内研修など職場全体に生かしている。 ・学校（園）の課題の解決に向け、自律的に研修を進める校（園）内体制を整えている。	
	実践的指導力	授業力	・ねらいを明確にした指導案を作成し、意図的な授業（保育）を展開することの重要性を理解している。	・ねらいを明確にした指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業（保育）を展開している。	・専門性を高め、ねらいを達成できる指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業（保育）を展開している。	・専門性を一層高め、ねらいを達成できる指導案を作成し、子どもの考えを生かしながら意図的・計画的に授業（保育）を展開するとともに、範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えている。
		生徒指導・進路指導力	・個や集団を指導する意義や重要性、手立てを理解している。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導の重要性を理解している。	・子どもの発するサインを見逃すことなく予防的な対応を行っている。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行っている。	・校（園）内での情報共有に努めながら客観的な事実の把握を行っている。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行うとともに、自校（園）の生徒指導・進路指導上の課題解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）の生徒指導・進路指導上の課題解決に向け具体的な方策を提案している。 ・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して、子どもの自己実現を図る指導を行うとともに、範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えている。
学級経営力	・年間を見通した学級経営の重要性、学級担任の役割や職務内容を理解している。	・子ども理解に基づく学級経営を計画的に行い、よりよい学びの環境をつくっている。	・子ども理解に基づく学級経営を計画的に行い、望ましい集団をつくっている。	・望ましい学級経営について範を示したり、これまでの経験を踏まえた「心構え」や「コツ」を伝えている。		

学部生からみた教員に必要な資質能力に関する一考察

新たな教育課題への対応力	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」への対応力	・「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景や重要性について理解している。	・「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校（園）における「主体的・対話的で深い学び」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における「主体的・対話的で深い学び」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「カリキュラム・マネジメント」への対応力	・「カリキュラム・マネジメント」が求められる背景や重要性について理解している。	・「カリキュラム・マネジメント」が求められる背景や重要性について理解し、教育活動に生かしている。	・学校（園）における「カリキュラム・マネジメント」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における「カリキュラム・マネジメント」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「ICTを活用した指導」への対応力	・「ICTを活用した指導」が求められる背景や重要性について理解している。	・「ICTを活用した指導」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校（園）における「ICTを活用した指導」推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における「ICTを活用した指導」推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「道徳教育の充実」への対応力	・「道徳教育の充実」が求められる背景や重要性について理解している。	・「道徳教育の充実」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校（園）における道徳教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における道徳教育推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「外国語教育の充実」への対応力	・「外国語教育の充実」が求められる背景や重要性について理解している。	・「外国語教育の充実」が求められる背景や重要性について理解し、実践に生かしている。	・学校（園）における外国語教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における外国語教育推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
	「特別支援教育の充実」への対応力	・特別支援教育の動向や具体的な支援内容、支援体制等について理解している。	・特別支援教育の動向や具体的な支援内容、支援体制等について理解し、特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズ等に対応している。	・特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズ等に対応し、学校（園）における特別支援教育推進上の課題を理解し、その解決に向けて取り組んでいる。	・学校（園）における特別支援教育推進上の課題解決に取り組むとともに、範を示したり、助言したりしている。
学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員	学校（園）づくりを担う一員としての自覚と協調性	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を理解している。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を理解し、それに基づき行動している。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を深く理解し、それに基づき行動するとともに、経験の浅い教職員に指導助言を行っている。	・教育公務員として、社会と協働して職務を円滑に遂行する上で必要となる職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を深く理解し、それに基づき行動するとともに、社会性を向上させる職場意識を高める校（園）内体制を整えている。
	コミュニケーション能力（対人関係能力を含む）	・自らの考えや意見などを相手に分かりやすく伝えるとともに、相手の考えの傾聴に努めるなど、互いを尊重して意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校（園）の方針等を子どもや保護者等に分かりやすく伝えるとともに、相手の意図を正確に理解し、円滑に意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校（園）の方針等を子どもや保護者、地域等に分かりやすく説明するとともに、相手が意図する背景を含めて正確に理解し、新たな方向性を見出すなど発展的な意思疎通を行っている。	・自らの考えや学校（園）の方針等を子どもや保護者、地域等にも配慮しながら分かりやすく説明するとともに、相手が意図する背景を含めて正確に理解し、課題解決に向けて共通認識に立ち実際の行動につながる意思疎通を行っている。
	組織的・協働的な課題対応・解決能力	・集団の中で協働的に行動することの重要性を理解している。	・組織の一員としての自覚をもって学校（園）づくりに関わり、求められる役割を果たしている。	・組織の一員として積極的に学校（園）づくりに関わり、互いのよさを認め合い、それぞれの能力を生かして計画的に課題解決に当たっている。	・全校（園）的な視野に立ち、一人一人の役割と能力を生かして計画的に課題解決に当たっている。
	地域等との連携・協働力	・保護者や地域等との連携の重要性を理解している。	・保護者や地域等との連携の重要性を理解し、積極的に関わり、連携・協働して対応している。	・保護者・地域・関係機関等との関わりを深め、連携・協働して対応している。	・保護者・地域・関係機関等との連携・協働のネットワークを構築して学校（園）の運営に当たっている。
人材育成に貢献する力	・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、互いに高め合おうとしている。	・他の教職員との関わりを大切にし、疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、互いに高め合おうとしている。	・互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員に指導助言を行っている。	・人材育成の重要性を踏まえ、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員への指導助言やミドルリーダーの育成に取り組んでいる。	

【資料3】 北翔大学教職課程 履修カルテ

【平成26年度以降入学生対象】

北翔大学教職課程 履修カルテ②<自己評価シート>

【小学校・幼稚園・特別支援学校】

学 部：教育文化学部
学 科：教育学科

学生番号： _____
氏 名： _____

1. 必要な資質能力についての自己評価

必要な資質能力の指標			自己評価		
項目	項目	指標	2年次(4月)	3年次(4月)	4年次(4月)
学校教育についての理解	教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。 (特)特別支援教育の理念、特別支援教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
子どもについての理解	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	子どもの状況に応じた対応	いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
他者との協力	他者意見の受容	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	保護者・地域との連携協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	共同授業実施	他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	他者との連携・協力	集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	役割遂行	集団において、率先して自らの役割を見つたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
コミュニケーション	発達段階に対応したコミュニケーション	子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。 (特)子どもたちの障害の特性や発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	子どもに対する態度	気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。 (幼)子どもの興味や思いを受けとめ、いっしょに遊んだり、会話したりすることができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	公平・受容的態度	子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	社会人としての基本	挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	各教科概論 保育内容 特別支援教育	これまで履修した各教科の科目の内容について理解していますか。 (特)これまで履修した特別支援教育の科目の内容について理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	学習指導要領・幼稚園教育要領	小学校学習指導要領の内容を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(幼)幼稚園教育要領の内容を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(特)特別支援学校学習指導要領の内容を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の構成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	道徳教育・特別活動	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	総合的な学習の時間・外国語活動	「総合的な学習の時間」「外国語活動」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	情報機器の活用	情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	学習指導法	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(特)一人一人の教育的ニーズに応じる学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5

学部生からみた教員に必要な資質能力に関する一考察

【平成26年度以降入学生対象】

必要な資質能力の指標			自己評価		
項目	項目	指標	2年次(4月)	3年次(4月)	4年次(4月)
教育実践	教材分析能力	教材を分析することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	授業構想力	教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(幼)ねらいに即した保育を計画し、指導案としてまとめることができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(特)教材研究を生かした授業を構想し、障害の状態や特性に応じた指導案としてまとめることができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	教材開発力	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(幼)子どもの実態及びねらいに応じた教材・教具を作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(特)特別な支援を必要とする子どもたちに応じた教材・資料を開発・作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	授業展開力	子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業(保育)を展開することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
表現技術	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
学級経営力	学級経営案を作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
課題探求	課題認識と探求心	自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
		(特)自己の課題を認識し、自立にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
	教育時事問題	子育て、いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心をもち、自分なりに意見を持つことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5

2. 教職を目指す上で課題と考えている事項

(1)平成 年 月 日

(2)平成 年 月 日

(3)平成 年 月 日